別記様式6（第9項関係）　　平成　30　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4790500054		
法人名	社会福祉法人　善隣福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所　愛誠園		
所在地	沖縄県宜野湾市伊佐2丁目1番6号グランドステージMG道下1階		
自己評価作成日	平成30年11月26日	評価結果市町村受理日	平成31年　3月　4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4790500054-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号　クレスト西205
訪問調査日	平成30年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

○利用者が生き生きとした生活が送れるよういつも職員が目の届く範囲にいて目配り、気配りしている。
○利用者の皆さんに声掛けを行い、朝のラジオ体操・レク体操・早口言葉・脳トレーニングを行っている。
○地域の保育園と定期的に交流会を行っており、利用者からは笑顔見られ楽しまれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、開設11年が経過し、母体法人である介護老人福祉施設と連携し、各種職員研修等を一体となって取り組むと共に運営推進会議への参加や利用者が重度化した場合の協力体制が構築されている。毎月、全体ミーティングを開催し、利用者一人ひとりの支援状況を確認し、利用者の状態に応じた介護計画の作成に反映させると共に職員勉強会を実施し、サービスの質向上に努めている。理念に掲げている「笑顔あふれる暮らし」や「個性の尊重と力が発揮できる支援」を目指し、常に利用者とコミュニケーションを図り、利用者の思いの把握に努め、利用者優先のケアに繋げるよう努めている。90歳以上の利用者が過半数を占める中、日中のトイレでの排泄やオムツに頼らない支援を実践している。食事は、お刺身など、利用者の好みや地域の食材を活用し、3食とも事業所で調理し、職員も一緒に家庭的な雰囲気の下で楽しい食事が提供されている。運営推進会議では、委員から積極的な意見や助言が出され、事業所の取り組みに反映されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をトイレや玄関付近の目に入る場所へ掲示しており、常に意識しながら支援を行っている。	理念は、職員がいつでも確認できるよう玄関や台所、事務室やトイレに掲示している。毎月開催のミーティングでは、全職員で理念を読み上げると共に職員採用時は、管理者が説明し、共有している。理念に掲げている「笑顔があふれ安心した暮らし」や「個性の尊重と力が発揮できる支援」は、常に利用者とコミュニケーションを図り、利用者優先のケアを目指して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園と交流会を持ち子供達と接する機会を設けている。 地域の新年会にも参加している。	事業所は、7階建ての地下1階にあり、近隣住民が日常的に出入りする環境にはなく、2階上部の法人内保育園と敬老会やクリスマス会等で交流している。自治会には、開設当初から加入し、利用者と新年会への参加や年2回、地域清掃にも協力している。毎年、社協主催のはごろもチャレンジ隊として市内中高生の体験や専門学校の実習生を受け入れを支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学・相談に来られた方にグループホームや認知症について説明し理解を深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い現状報告や活動報告を行っている。会議の中で意見等あれば職員間のミーティングで議題に上げ話し合いサービス向上に活かしている。	会議は、年6回開催し、行政や地域代表者は毎回参加しているが、利用者や家族が欠席の月がある事や構成員に知見者が含まれていない。会議では、活動状況や事故・ヒヤリハット等が報告され、委員と「急変時対応にAEDの設置要請や災害発生時の夜間の職員体制」等について意見交換している。会議録や外部評価結果は、ファイルにし玄関横に設置し、公表している。	運営推進会議に利用者や家族の参加に努めると共に構成員として知見者の参加が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に担当の市職員に参加して頂いておりその都度相談やアドバイスを頂いている。市のグループホーム連絡会に参加し情報交換、アドバイスを頂いている。	行政担当者とは、運営推進会議や市グループホーム連絡会の他、市包括支援センター及び地域密着型サービス運営委員会で情報交換している。今年7月に管理者の交替があり「糖尿病のインスリン注射への対応」等、諸制度や事務手続き等を相談し、助言を得ている。行政からは定期的に研修案内や空き情報の問い合わせがあり、協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し2ヶ月に一度話し合いの場を持ち各職員にも周知している。	身体拘束をしないケアの方針の下、法人内研修や事業所での勉強会を実施している。家族から「事故防止に4点柵を」の依頼に事業所の方針を伝え、2点柵で対応している。日中、玄関等は、施錠せず、外出の要望には職員が同行する等、支援している。身体拘束適正化のための指針を策定し、運営推進会議が身体拘束適正化の委員会を兼ね、7月、10月、12月に会議を持ち、議事録を作成し、職員にも周知されている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束に関する研修や、定期的に身体拘束等の適正化の為の指針の読み合わせを行い防止に努めている。。	虐待防止の徹底については、法人や事業所内で身体拘束と虐待防止やメンタルヘルス研修に参加すると共に年2回、ストレスチェックも実施されている。職員の言葉遣いや対応が気になる時は、職員間で注意し合ったり、対応を代わる等虐待防止に努めている。夜間、同時にセンサーコールがなり、片方のスイッチを切ったまま対応したことを忘れた職員に「これも虐待だよ」と、注意した事例があった。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身内の少ない利用者には権利擁護の説明をして活用出きる様にしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者及び利用者家族に対し、十分に説明を行い、疑問点があればその都度説明を行い理解してもらえる様努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。推進会議に家族代表にも参加して頂き意見を求めている。	利用者の要望等は、日々の支援の中で聞き、食事や日課等に反映している。家族からは、面会時や運営推進会議等で聞いている。家族から、事業所の現状を伝える為、運営推進会議に母体法人の参加を求める声があり対応されている。運営推進会議の記録についても委員の雑談は省き、要点をまとめるよう意見があり、改善されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全職員のミーティングを行い、利用者の個別の状態等の意見や、行事等を話し合っている。	職員意見は、毎月の全体ミーティングや申し送りの他、業務中、いつでも聴く体制をとっている。職員から、「古くて調子の悪い電子レンジや食器乾燥機の買い替えやおやつ作り等にホットプレートを購入したい」の声に対応している。母体法人から、職員確保が困難な状況下、準・夜勤の2交代制を1交代制への変更依頼には、職員意見をまとめ、パート職員の対応を提案し、検討されている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月休みの希望を聞き、シフト制作時に取り入れている。必要な物があれば職員間で話し合い購入している。	法人で就業規則が作成され、年休や病休等、職員の労働環境を整備し、インフルエンザの予防接種や年2回の健康診断も法人負担で実施されている。資格取得に向けては、実践者研修等、希望する職員には勤務を調整して対応しているが、日常的に職員の休憩時間の確保が困難な状況下にあり、課題となっている。	法人と連携し、職員体制の確保に努める事に期待したい。

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修や、法人内研修に参加し職員個々がスキルアップの機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加し、情報、意見交換を行っている。同法人内のグループホームへ訪問し、交流会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の声に耳を傾け状況把握に努めている。常にコミュニケーションを取りながら信頼関係を構築し不安感をなくすよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族、介護保険サービス関係者との会話を通じ情報を共有し信頼関係構築に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話の中で本人や家族の要望等を伺いながら必要な支援を決めている。職員間でも話し合いながら必要な物があれば購入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションの中から本人の出来る事、好きな事を見つけ一緒に行い信頼関係構築に努めている。1人1人への声掛けも大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に会話を通じ、要望等を聞きながら意見交換し問題点等を共有しながら家族、職員が一緒に本人を支える様努めている。病院受診、紙パンツ等の買い物を家族にお願いし、訪問の機会を作っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出やミニドライブ時に本人が住んでいた地域を回ったり、地域のお祭りや、行事に参加している。家族に外食や、お盆、お正月等に自宅に帰省をお願いしている。	利用者と馴染みの人や場については、本人や家族から聞いて、把握している。自治会の新年会に地域出身の利用者2名が参加し、旧知の人と交流している。さしみ店を経営していた利用者には、食材の買い物時にスーパーで刺身を選んでもらっている。ドライブ時は、出身地域を回る等、支援しているが、全体的に家族を中心とした交流となっている。	利用者と馴染みの人や場については、家族以外との関係継続に向けて更なる取り組みが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人に目を配り、席替え等も行いながら対立しないように努めている。利用者同士の会話が弾むよう職員が間に入りながら話題を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族から連絡があった場合、相談等を聞いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら本人の様子や行動を観察し、暮し方の希望、意向の把握に努めている。家族の面会時等にも希望を聞いている。	利用者の思いや意向は、日々のケアを通して把握し、「服を買いたい」や「家に帰りたい」等の要望には、介護計画に「外出」を位置付けて支援している。発語が困難な利用者には、ホワイトボードを活用し筆談で対応している。日頃、会話が困難な利用者が保育園児が訪問すると「おいで」と自ら言葉を発したり、「スープは飲まない」との利用者が「イナムルチ汁」を口にされ、好みの物を発見する等、利用者の行動や発語から思いを把握し、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等面会者から情報収集を行い、把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に目を配り現状の把握に努めている。申し送り簿等やミーティングで利用者の現状報告し、職員全員が把握するよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や面会時に本人や家族、職員間ではミーティング、業務中であっても話し合い介護計画に反映している。	担当者会議には、利用者や家族、介護職員等が参加し、「できることはやりたい」や「訪問マッサージを利用させたい」等の意向を反映し、介護計画を作成している。計画は、長期目標を1年、短期目標を半年とし、毎月、全体ミーティングで利用者一人ひとりの状況を確認すると共に3カ月毎にモニタリングを実施している。計画は、1年及び更新時に見直し、状態変化により「立位運動の導入や食事形態の変更」等、随時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや利用者個々の介護記録に記入し、職員間で情報を共有し問題点等を確認し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を見ながら病院受診の対応等行っている。本人が希望する物や面会は家族にお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者個々の常態に応じて地域の祭りやイベントに参加して地域の人との交流を支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞きながらかかりつけ医や協力医での受診の支援を行い、健康に過せる様にしている。本人の状態を主治医へ説明、文書の交付を行い、適切な医療が受けられる様連携している。	利用開始前からの医療機関を受診している利用者は3名で、その他の利用者は本人や家族の了解を得て協力医に変更している。受診時は原則として家族が付きそっているが、通院介助が必要な利用者は、事業所での状態を職員が医師に伝え、受診後は電話で家族に伝え、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医に週に一回訪問看護師をお願いしており、その都度利用者の状態を説明し、本人の状態を悪化させない様適切なアドバイスを受けている。特変や緊急時にも連絡を取りアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時アセスメントや口頭で情報提供を行い、適切な治療が受けれる様にしている。退院時のカンファへ参加し退院後のケアに生かしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と相談しながら重度化や終末期に向けての支援を決めている。特養等への入居の相談にものり、他施設との連携にも努めている。	重度化や終末期の対応については、利用開始時に利用者及び家族の意向を確認し、事業所で作成した「グループホームの重度化対応に関する指針」で事業所の方針を説明し、同意書を徴している。本人及び家族からの要望があれば、バックアップ施設である特養ホームへの入所も含めて支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体等の緊急時の研修に参加や、定期的に緊急時の対応の勉強会を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行い地域の方へも協力を依頼している。	年2回、昼と夜間想定の避難訓練を実施しているが参加は職員のみであり、地域からの協力は得られていない。備蓄は、飲料水・缶詰・冷凍食品等を3日分準備している。今年3月の夜間帯に台所で小火が発生し、自動通報装置が作動し消防車が出動している。事態発生後は、ガス器具を温熱感知機能付きに変更し、調理時の利用者からのコールには、火を止めて対応する事を確認し、周知されている。	事業所は、集合住宅に位置し、車の乗り入れられる道路が狭いことから、避難誘導等に上階の保育園やアパート住民との連携と、非常時の際の備蓄品の購入計画の見直しを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の性格、生活歴が異なる為、声掛けや支援の方法を変え人格の尊重やプライバシーの保護に努めている。	新規採用の職員は、法人の行動指針を通じて言葉遣いや態度等を新人研修時に学ぶ機会を持っている。職員は、業務優先ではなく、利用者一人ひとりの声や気持ちを第一として対応するよう努めている。個人情報保護方針、及び利用目的を事業所内に掲示している。	

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声を掛ながら利用者の希望や本人が出来る事、やれる事を見極めて支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の手が足りない時には思うように出来ない事もあるが、本人の希望を優先する様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、起床後の整髪や毎食後の歯苦き、出掛ける前にはお洒落をする様にしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化により一緒に準備は出来ないが、もやしのヒゲ取りや鰹節のパック詰め等は行っている。各利用者に合った食事形態で提供し、食べれない物がある場合は他のメニューに代え提供している。	食事は三食とも職員が調理し、利用者と職員が同じテーブルで昼食をとっている。利用者の身体状況に応じて、食器を陶器やプラスティックで対応している。献立は、家族が差し入れた季節の野菜や果物を取り入れたり、刺身店を経営していた利用者が目利きをした刺身が食卓に出したり、利用者の好みに応じて一部献立を代えることもある。利用者は、野菜等の下拵えやお箸配り、お茶注ぎ等をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食、きざみ食、常食と利用者の状態に合わせた食事形態で食べやすい様にしている。水分摂取もお茶、コーヒー、ヤクルト、ミルク等バリエーションを多くし水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声を掛け出来るだけ本人にしてもらうが、出来ない所、義歯等は職員が支援している。		
43	（18）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食前後、起床後、就寝前にはトイレ誘導し排泄のパターン化に努めている。排泄チェック表で排泄の有無を確認し、定期的にトイレ誘導の声掛けを行っている。	トイレ前にしきりに立ちあがろうとする利用者の行動パターンをとらえ、さりげなくトイレへ声かけしたり、食事前後に必ずトイレに案内することにより、日中のおむつ利用者はいない。リハビリパンツを使用していた利用者に、担当職員から「トイレでの排泄ができており、布パンツでも大丈夫じゃないですか」という意見で介護計画を見直し、布パンツに変更した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食沢山の食材を使用し食物繊維の摂取や、水分摂取の際、コーヒーの甘味料にオリゴ糖を使用したり、ヤクルトやミルクを提供して自然な排便が出来る様にしている。朝食後にはラジオ体操や踊り、レクリエーションで体を動かす機会を作っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回で午前中で曜日も決まっているが、本人の希望や体調等により変更、中止する事もある。	入浴は、「一番に入りたい」や「お湯は熱め、温めがいい」等、利用者の希望に沿って支援している。男性利用者は、本人の希望で入浴前にシェーバーで自ら髭を剃っている。職員が濡れることに気をつかう利用者の入浴時は、本人の残存能力と意思を尊重し、職員は外で見守りを支援している。女性利用者には同性介助を実施している。脱衣所の整理と鏡等の設置が期待される。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人より居室で休みたいと希望があればいつでも休んでもらっている。様子観察し体調不良や外出後の疲れた様子の際には声掛けし居室で休む様に促がしています。各利用者に合わせて居室の暗さの調整もしています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を薬箱に貼り付けいつでも確認出来る様にしています。病院受診後等薬の変更があった際には申し送り簿に記入し全職員が把握出来る様にしています。	服薬支援については、食前薬とそれ以外の薬の保管場所を分け、誤薬防止に努めている。与薬の際には、氏名と時間、薬の確認を行い、利用者が飲み込むまでを確認している。薬の変更等があった場合は、申し送り事項で利用者の薬についての情報を職員同士で共有するようにしているが、服薬支援に関するマニュアルを確認できなかった。	利用者の安全な服薬支援のために、服薬支援マニュアルの作成が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の出来る事や好きな事を把握し能力に応じて出来る事を支援している。年に2回程度、全利用者と職員で外食し気分転換もはかっている。		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物に出掛けたり、ドライブや外食に出掛けている。	日常的には、玄関前広場や天気の良い日には非常扉の踊り場で外気浴をする利用者がいる。時々、職員とスーパーでの買い物や近くをドライブしている。年2回程度、初詣や外食等を兼ねて、分乗しながら全員でドライブする機会を持てるよう努めている。個別には、家族の協力を得て、盆・正月の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し買い物等は家族対応でお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやり取りが出来る利用者には支援し、出来ない利用者には希望があれば職員が聞き家族へ伝えています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に写真や家族からの送り物等を飾ったり、共用スペースには写真や季節に応じた飾りつけをし、季節感が出る様にしています。	事業所内は、こまめに換気をしたり、利用者の状態を見ながら冷暖房の温度設定をしている。対面式のキッチンでは、調理のいい匂いに誘われてカウンター近くに来る利用者がいる。リビングに飾ってある国からの長寿祝いが話題に出ると嬉しそうにする利用者がいた。事業所でとっている新聞を共有スペースで読む利用者が4人いる。	

自己評価および外部評価結果

確定日：平成31年 2月 5日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が集う場所と別に話せるスペースを作っている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や、家族の写真を飾ったりし、居心地よく過せる様にしている。希望であればテレビ等も持ち込んでもらっている。	居室には、ベッドやクローゼットの他、職員が手作りした布製の額等が備え付けられている。利用者は、写真や帽子、プラスティックの衣装ケース等思い思いの品を持ち込んでいる。家族との交流に携帯電話を自ら充電する利用者やソファーを配置し、テレビを居室で楽しむ利用者の他、シェーバーを持ち込み身だしなみを整える利用者がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や手すりを利用して安全に移動出来る様にしている。車椅子使用の方にも出来る範囲で自走してもらう様声掛けしている。		

（別紙4（2））

事業所名 ： 認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園

作成日 ： 平成 31 年 2 月 25 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議の際、利用者や家族代表が欠席の月がある事や構成員に知見者が含まれていない。	運営推進会議に利用者や家族の参加に努めると共に構成員として知見者に参加してもらう。	運営推進会議の開催月には早い時期に会議開催の周知を行う。知見者については他の施設に協力を依頼する。	3ヶ月
2	12	日常的に職員の休憩時間の確保が困難な状況下にあり、課題となっている。	法人と連携し、職員体制の確保に努める。	法人には相談しており、パート職員を採用する等を検討し体制確保に努める。	6ヶ月
3	20	馴染みの人や場との関係継続の支援の際、全体的に家族を中心とした交流となっている。	利用者と馴染みの人や場について、家族以外との関係継続に向けて取り組みを行う。	利用者の出身地域の行事等に参加	5ヶ月
4	35	避難訓練の際、参加は職員のみとなっていて、地域からの協力が得られていない。備蓄は3日分しか用意されていない。	上階の保育園や近隣の企業と連携を行っていく。備蓄の量を増やす。	避難訓練時に上階や近隣企業に協力を依頼し、合同での避難訓練等を計画していく。	3ヶ月
5	47	服薬支援に関するマニュアルが無い。	服薬支援マニュアルを作成する。	職員間で相談、協力し服薬支援マニュアルを作成する。	2ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。